

超短編②

「歌声列車」(20020831)

僕の「将棋車両」を読んで、ある方が面白い手紙を送ってくれた。

拝啓、貴兄のHP、いつも楽しみにしております。

私は宮城県の仙台市に住む50代のごく普通のサラリーマンです。

仕事柄、社労士の先生との付き合いがあり、いろいろな先生のHPを見ているうちに、偶然貴兄のHPに出会いました。以来、ちよくちよく覗いております。

さて先日、短編コーナーの「将棋車両」を楽しく読ませていただきました。読み進めるうちに昔自分が高校生だった頃のことを思い出しました。

私が高校生の頃の話ですから、もう40年近く前の話です。

当時、私は実家の石巻市（宮城県）の住んでいました。高校は仙台市にあり、毎日国鉄（当時）の仙石線を通っていました。

実は、この仙石線に「歌声列車」と呼ばれる車両があったのです。

もう想像がついたとは思いますが、そうです、この車両では皆が大きな声を出して楽しく歌を歌っていました。

話は少し前に遡ります。

貴兄はご存知ないと思いますが、1950年代に「歌声喫茶」というのが全国的に流行りました。東京の新宿が発祥地だったと聞いています。そこでは、見知らぬもの同士が肩を組み、声を張り上げ、歌を歌っていました。今で言う「カラオケスナック」みたいなものでしょう。

仙台市の繁華街にも1軒この歌声喫茶があったようですが、私が高校に入る頃にはパチンコ店になっていました。

実は歌声車両は、この仙台市にあった歌声喫茶の名残です。

当時、昼間仙台市で働いて、夕方から歌声喫茶で大声を張り上げストレスを解消し、夜仙石線で石巻市に帰る、という人が多くいたそうです。

ところが、ある日突然経営者が変わってしまった、パチンコ店に衣替えしてしまったために、唯一と言っていい健全なストレス発散の場であった歌声喫茶がなくなって、困ってしまった彼らが考えたのが、この「歌声列車」でした。

実際、歌声列車でアコーディオンを弾いていた高山さんという人は、かつて歌声喫茶でアコーディオン弾きとして雇われていたそうです。

石巻駅行き仙台駅18時25発の先頭車両が歌声列車でした。

毎晩、高山さんのアコーディオンを中心に老若男女を問わず、皆が肩を組み、大声で歌を歌いながら楽しく石巻まで帰ったものです。

色々な国の歌を歌いました。

ロシア民謡とかフランス民謡とかが多かったように記憶しています。

私はまだ高校生でしたが、もともとが労働者の楽しみだったからでしょうか、労働歌も多かったように思います。私は「乾杯の歌」というドイツ民謡が好きでした。

この歌声列車で偶然隣同士になり、一緒に肩を組み、歌を歌ったのが縁で付き合い始め、結婚まで至ったという夫婦も多く、その噂を聞いて、恋人探しに紛れ込む不純（？）な若者も後を絶ちませんでした。

彼らはほとんど仙台市の住人なので、石巻駅についても下車せず、そのまま寂しく仙台駅に帰っていくのが常でした。

歌声列車は1日1本、しかも1車両だけでしたから、毎日大変な混みようでした。

「将棋車両」と同じで、早い人は1時間以上も前から、席取りのために並んでいました。

そういう私も放課後は図書館で時間をつぶし、1時間前には席取りのために、駅のホームに突っ立っていました。

私は高校卒業後、仙台市内の会社に就職をしたため、歌声車両に乗ることはなくなりました。

高校を卒業した年の夏、ある日突然、国鉄から列車内で歌を歌うことに対して中止命令が出て、それであっけなく歌声列車は幕を閉じたのだそうです。

その後、歌声列車の常連が仙台駅の仙石線ホームに集まって「歌声列車のお別れ会」を行いました。

私は仕事の都合で参加できませんでした。

最後は私の好きな「乾杯の歌」で締めくくったそうです。

後で、仕事なんか放ってでも参加すべきだったと、本当に後悔したことをよく憶えています。

長い文章になってしまいました。

貴兄の短編、これからも楽しみにしております。

それではさようなら。

超短編シリーズはフィクションです。念のため